

『日経新聞ガッツリ活用講座』

～情報感度が高まる経済ニュースの読みこなし方～

21世紀に入り、IT技術の進展で情報格差が小さくなっています。単に情報を知るだけでは、企業も個人も差別化が難しくなってきました。これからの時代は“情報を単に知るだけ”でなく、“**情報を考える材料にし、そこから自分なりの分析や結論、展望などを導き出す人**”が、本当の意味で『情報に強い人』になってきます。

本セミナーでは、ビジネスパーソンの情報源として馴染み深い日経新聞の記事を材料に講義を進めます。前半では景気動向を知るための基本的な経済指標の見方を、後半はどのような切り口で情報と向き合えば、自分なりの分析や結論、展望、意見などのアウトプットができるかをお伝えしていきます。新聞の情報はもちろんのこと、**普段のお仕事でも情報への感度が高まる**講座です。



参考書籍：
渋井真帆の
日経新聞読みこなし隊

【受講対象者】	【期待できる効果】
<ul style="list-style-type: none">➢ 新入社員、若手社員の方を中心に、日頃から日経新聞を読んでいる方はもとより、あまり新聞に興味のない方まで、幅広くご参加いただけます。➢ 情報の収集力と分析力が求められるタイプのお仕事に従事されている方に、特にお勧めいたします。	<ul style="list-style-type: none">➢ 1つの情報を様々な角度から分析する思考力➢ 情報のインプット力とアウトプット力➢ 新聞へのアレルギーがなくなり、新聞を読むのが楽しくなる➢ 新聞だけでなく、普段の仕事でも情報への感度が高くなる

【カリキュラム概要(3時間)】

<ol style="list-style-type: none">1. 日経新聞を読み続けるコツ2. 景気動向を知る3つの経済指標3. GDPの成長率とGDPの中身4. GDPの規模比較クイズ5. 覚えておきたい数字6. 失業率7. 日経平均株価8. 情報に強い人が身につけている『先読み思考』9. 新商品(新サービス)の記事の切り口 ～もっと売れるにはどうしたらいい?～	<ol style="list-style-type: none">10. 企業の記事の切り口 ～社長になった気分で想像してみよう～11. 国の政策の切り口 ～個人はどう動く? 企業はどう動く?～12. いろいろな切り口を持つ効用13. 最初からダイヤモンドの情報はない14. 紙情報とweb情報を徹底活用する『ハイブリッド型情報収集』 記事にどう向き合えばいいのかや考える切り口をお伝えし、事例の記事を読んでみるというパターンで進めます。受講者に実際に読み方を体験していただき、研修効果を実感していただきます。
---	--

- ✓ 基本的な経済指標の見方が分かる
- ✓ さまざまな角度から分析できる
- ✓ In putとout putの力が向上
- ✓ 新聞アレルギー克服
- ✓ 普段の仕事でも情報感度が高くなる

本講座の導入で御社社員様の情報への感度が格段に高まり、**“情報を使って考える人”**になります。

“情報を単に知っている人”ではなく“情報を使って考えられる人”が情報に強い人

【使用テキスト抜粋】

レジメ本編以外に新聞記事を使った資料編を使用いたします。

GDPの規模比較クイズ

下表は2008年の国別のGDP上位15カ国です。3、8、9、12に入る国名は何でしょうか？


順位	国名	GDP 金額 (億ドル)	世界のGDP 占めている割合	(参考事項) 人口(億人)
1	米国	142,043	23.4%	3.0 億人 (31)
2	日本	49,292	8.1%	1.3 億人 (10)
3	()	43,292	7.1%	13.9 億人 (11)
4	ドイツ	36,529	6.0%	0.8 億人 (16)
5	フランス	28,531	4.7%	0.6 億人 (21)
6	英国	26,456	4.4%	0.6 億人 (22)
7	イタリア	22,830	3.8%	0.6 億人 (23)
8	()	18,125	2.9%	1.9 億人 (6)
9	()	16,079	2.7%	1.4 億人 (8)
10	スペイン	16,042	2.6%	0.4 億人 (29)
11	カナダ	14,061	2.3%	0.3 億人 (26)
12	()	12,175	2.0%	12.0 億人 (2)
13	メキシコ	10,880	1.8%	1.1 億人 (11)
14	オーストラリア	10,152	1.7%	0.2 億人 (33)
15	韓国	9,291	1.5%	0.5 億人 (28)
-	(EU27 加盟国)	(182,831)	(30.2%)	(4.9 億人) -
	世界の合計	605,870	100.0%	68 億人

覚えておきたい数字(1ドル=100円で換算)

- ①世界のGDP⇒約600兆円(約60兆ドル)
- ②世界のGDPのうち、アメリカが占める割合⇒1/4弱
アメリカのGDPのうち、個人消費の割合⇒約7割
したがってアメリカの個人消費が世界のGDPに占める割合⇒約15%
- ③日本のGDP⇒約500兆円(世界に占める割合は約8%)
- ④EU27カ国のGDPが世界に占める割合⇒約3割(人口は7%)
- ⑤世界の総人口⇒68億人
- ⑥人口1位の()と2位の()の人口が世界に占める割合
⇒4割弱((13.5億人+12.0億人)/68億人=37.5%)

情報に強い人が身に付けている『先読み思考』


- 『先読み思考』とは、(経済・ビジネス)情報を“単に知るだけ”ではなく、“先を読む材料にし、自分なりの結論や展望を導く”思考法のこと
- つまり、いろいろな情報を見て、「これからどうなるの？」を考える思考法



『先読み思考』が何に役立つの？

- 『先読み思考』によって身につく力
 - 分析力(なぜそうなのか?)
 - 想像力(だからどうなるのか?)
 - 仕事力(ビジネスの仕組みが分かったり、仕事のアイデアが生まれる)
 - 投資力(成長企業の発掘)

⇒人生に最も必要な『考える力』が身につく




こんな記事ならどう読む？ ①

- 新商品(新サービス)の記事には『先読み思考』トレーニングのネタがいっぱい

☆ターゲットは誰？
☆自分だったら買う？周りの人はどうだろう？
☆もっと売れるようにするにはどうしたらいい？

【資料編】5、6ページ




こんな記事ならどう読む？ ②

- 企業の記事は、社長になった気分で想像してみよう

☆『その会社の社長』はどう考えている？

- ・社長がどう考えて記事になるようなことが起こったのか？
- ・事故や事件に対して社長はどう考えて、どう対処する？




こんな記事ならどう読む？ ③

- 国の政策の記事は、「それで個人はどう動く？」「企業はどう動く？」と想像してみよう

☆その政策で個人にはどんな影響が出て、どう動く？
☆その政策で企業にはどんな影響が出て、どう動く？

【資料編】11、12ページ



最初からダイヤモンドの情報はない

- 情報を石ころにするのもダイヤモンドにするのも受け次第

☆同じ情報を手にしても、ただ知るだけでは、他者との差別化は図れない

☆答えを探すためではなく、思考の材料として情報を活用しよう！

